

福井縣産一新毒蛛の記載

植 村 利 夫

A new Lycosid spider from Fukui Prefecture, Japan.

By Toshio Uyemura.

予は數年來學友藤田衛氏より屢々福井縣産蜘蛛類の送附を受け、これを同定する機會を恵まれたのであるが、一昨春秋、氏は同地の海岸に於て珍らしい習性を持つた巨大なドクグモの♀♂を發見して予に贈られた。予も又この美事な蜘蛛に非常な興味を持ち、爾來二箇年の研究と調査を重ねてみたが、最近漸くこれを新種と確認するに至つたので、こゝに其の記載を掲げ、標本の御惠與を賜つた藤田氏に滿腔の謝意を表する次第である。尙この蜘蛛の習性は藤田氏に依つて深き研究を遂げられ、昨年已に同縣の博物學會に發表されてゐる。

Lycosa fujitai sp. nov. イソドクグモ (新稱)

模式標本 (Type specimen), holotype は昭和12 (1937) 年10月3日福井縣坂井郡三里濱に於て藤田衛氏が採集した成♀1頭であり, allotype は同時に同地に於て採集せられた成♂1頭である。前者は著者の標本 No. 646, 後者は同700として保管してゐる。種名は發見者の藤田氏に捧げ、和名は其の棲息場所に因んで命じたもので、藤田氏が已に假稱として用ひられてゐたものを採用したのである。

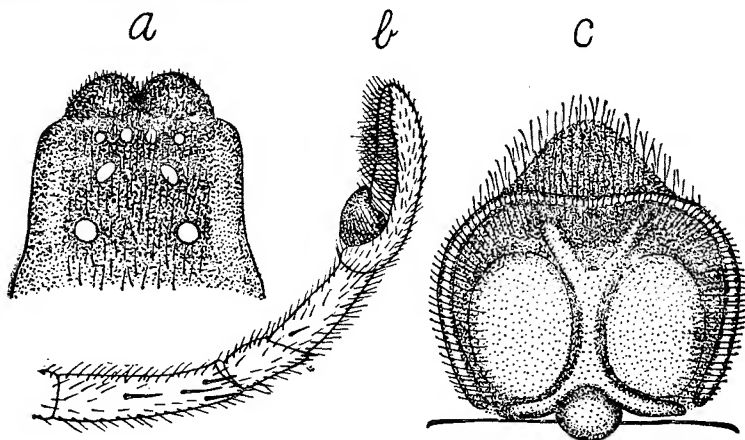
圖版説明 a. ♀の頭部 (cephalica) b. ♂の觸鬚 (palpus) c. ♀の生殖孔 (epigynum) Plate 7. ♀ (holotype) の背面. (dorsal view)

測 定 ♀ (holotype) は體長23 mm. 頭胸部の長さ10 mm. 幅8 mm. 腹部の長さ14 mm. 幅9 mm. で、♂ (allotype) は體長17 mm. 頭胸部の長さ9 mm.

幅 7 mm. 腹部の長さ 8 mm. 幅 6 mm. であるが、こゝに注目すべき事は、♂♀に依つて附屬肢の全長及び各節の比に非常な相異の認められる事である。次に兩者の測定表を掲げてみる事にする。(單位は何れも mm. である。)

性別	♀ (holotype)					♂ (allotype)				
節 肢	全長	腿節	膝+脛	跗節	跗節	全長	腿節	膝+脛	跗節	跗節
觸鬚	11.5	4.0	4.0	—	3.5	13.5	4.5	5.0	—	4.0
歩 I	24.5	7.0	8.0	6.0	3.5	28.5	8.0	9.0	7.0	4.5
歩 II	24.5	7.0	8.0	6.0	3.5	28.5	8.0	9.0	7.0	4.5
歩 III	24.5	7.0	8.0	6.0	3.5	27.0	8.0	8.0	7.0	4.0
歩 IV	29.5	8.0	9.0	8.0	4.5	32.0	9.0	9.0	9.0	5.0

即ちこの結果より見て(1)附屬肢の長さは♀よりも♂の方が優つてゐること、(2)♀は第1—第3歩脚は全部同長であるが♂に於ては第3歩脚は第1及第2よりも短いこと等が解る。



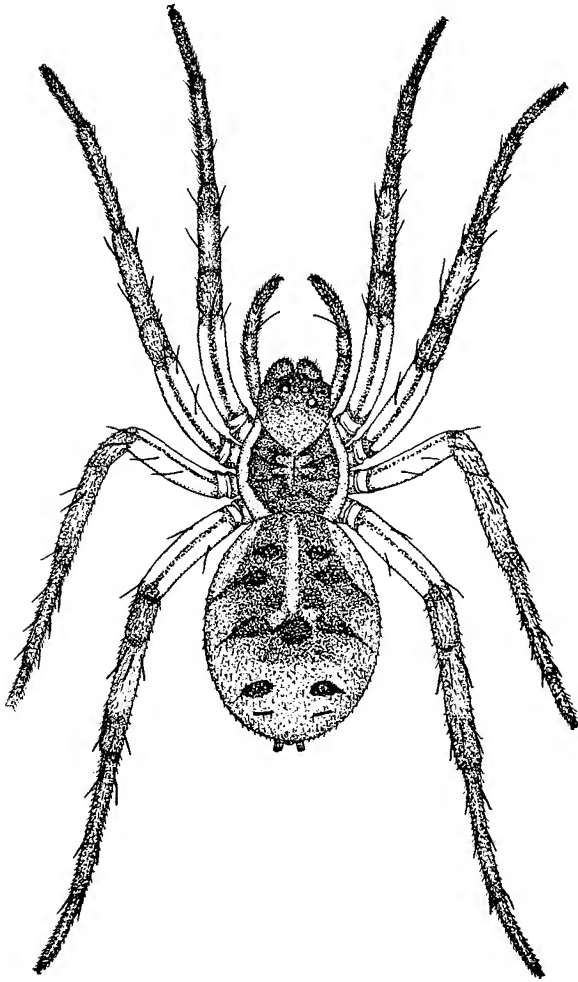
イソドクグモ *Lycosa fujitai* sp. nov.

色 彩 ♀. 背甲の縁周部と頸溝の前方即ち頭部の後半分とは黄褐色, 中

窩の周りは稍それより暗色で、眼域は黒く、其の他の部分は黒褐色である。上顎及牙は黒色、下顎及下唇部は黒褐色、但し前者の先端部は黄褐色である。胸板及び基節はビロード状の褐色で、そこには同様な色彩の長毛が密生してゐる。觸肢は褐色、但し跗節の大部分は黒褐色である。歩脚の腿節は4脚共上面に褐色の細い縦條があるのみで、他は全部明るい褐黄色を呈し、白色の微毛が密生してゐる。膝節以下は濃褐色であるが、脛節は比較的明るく、蹠・跗節は黒色に近い。轉節は紅褐色を呈する。腹部背面は灰褐色で、特に中央部は暗色、そこに數個の黒色斑點があるが、後方の一對を除いた他は輪廓不明瞭である。腹部下面は大きくビロード状の黒色を呈し、胃外域と蛛疣は褐色で、後者の前方には同様な色彩の弧狀斑紋がある。♂は♀と同様で特に記すべき事項を認めない。

形 態 頗る大形なドクグモである。眼は三列に並び第一列は直眼と第一間眼との4眼で、他は2眼づゝである。眼の大きさの順は第二間眼・第三間眼・直眼・第一間眼であつて、特に前二者は直徑に於て後二者の約3倍にも達する。後眼域の梯形に於て底邊は上邊の約2倍あり、上邊と側邊とは略同長である。全眼域には長毛が生えてゐる。中窩及放射溝は明瞭である。歩脚には腿節・膝節・脛節に夫々數本の剛毛を有し、觸鬚には脛節に長毛が一本ある。上顎には腿節と同様な柔毛が密生してをり、基節及胸板は前述の通り。歩脚の蹠・跗兩節にも特に毛が密に生じてゐる。下顎・下唇部及び腹部下面特に胃外域の部分にもビロード状の柔毛がある。下唇部は幅縦に優る矩形を呈し、其の約2倍の高さを持つた下顎は上半に於て内方に屈曲して下唇部を覆ふてゐる。胸板は橢圓形で、第二基節の間は最大。蛛疣は後對最も長く背面より見える。♂の形態は♀と殆ど同様、但し其の觸鬚は圖に示した通りである。

備 考 1. 本種に酷似した本邦産のドクグモ類にはイシカリドクグモ *Tarentula ishikariana* Saito (1934), スズキドクグモ *Lycosa suzukii* Kishida (1913), ムナグロオホドクグモ *Tarentula pia* Boesenberg et Strand (1906),



Lycosa fujitai sp. nov. (holotype)
(Toshio Uyemura del.)

ハラクロドクグモ *Tarentula coelestis* (L. Koch, 1877) 等があるが、それ等は何れも腹部下面と同様胸板は濃黒色を呈するのに對して、本種の胸板は褐色である點及び本種に限り歩脚の腿節のみが鮮かに目立つた淡黄褐色である點、其の他背面の色彩・斑紋・生殖器の構造等に於て明らかに區別する事が出来る。

2. 発見者藤田衛氏の報告に依れば、本種は海岸の砂中に口徑15—28 mm. 深さ15—30 cm. の管孔を掘つて、其の中に生活すると云ふから、其の習性は正しくフアーブルの研究を以て有名なナルボン・ライコーサ (*Lycosa narbonensis*) に似てゐるであらうと思はれる。其の詳報は近く藤田氏に依つて本誌にも發表される豫定である。

3. 中村正雄氏は曾て新潟縣柏崎の海岸に近き砂中より、本種と同様な蜘蛛を採集なされた事がある。同氏の通信に依れば「習性は砂中に穴居して居りました。體長1分5厘、頭胸部は稍色濃く、淡褐色にして、腹部背面に四點、脚は有毛稍黄褐色との記載が残つて居りますが、標本は他に送附して只今所持して居りません。それは♀でした」とあるから、多分これと同種であらうと思はれる。(昭和14年8月25日稿)

***Lycosa fujitai* n. sp. Japanese name Iso-dokugumo.**

The type specimens of this species are a pair of adult male and female which were collected by Mr. Mamoru Fujita at Sanrihama in Fukui Prefecture on october 3, 1937. They are now preserved in the author's collection. The female is 23 mm. while the male is 17 mm. in length. According to Mr. Fujita this species is found at seashore and it digs a burrow 15—30cm. deep in which it lives. The present species is closely allied to *Lycosa suzukii* Kishida 1913, but differs from the latter in the following characteristics: In *Lycosa suzukii* the coloration of both the sternum and hair which covers the sternum is pure black and the trochanters of the legs are blackish brown, but in *L. fujitai* the sternum and hair are brown and trochanters of the legs are remarkably bright yellowish brown.